

午後Ⅱ試験

全問共通

全問に共通して、“論述の対象とする構想，計画策定，システム開発などの概要”が適切に記述されていないものや本文と整合性がとれないものが散見された。評価の対象となるので，矛盾が生じないように適切な記述を心掛けてほしい。また，全問ともに AI を活用した論述が多く見受けられたが，活用した AI について具体性に乏しい論述が散見された。

午後Ⅱ試験では，ITストラテジスト自身の経験と考案に基づいて，設問の趣旨を踏まえて論述することが重要である。問題文及び設問の趣旨から外れた論述や具体性に乏しい論述は，評価が低くなってしまうので，注意してほしい。

問1

問1では，昨今，取り組まれることの多い AI や IoT をテーマにした多様な論述が見受けられ，新たな情報技術を使った概念実証（PoC）のプロジェクトに携わった経験のある受験者には比較的論述しやすい題材だったと思われる。一方で，製品選定にとどまっている論述，取組の手順だけを説明し，検証内容や結果が説明されていない論述，技術的な検証に終始した論述も散見された。技術検証の結果を，経営や事業の観点からどのように評価したのか，経営層が認識すべきリスクと対策が何かを論述してほしい。また，DXの狙いが何か，なぜその情報技術が必要なのか具体的な論述や，デジタル技術の導入に終始している論述も散見された。ITストラテジストとして，事業の変革に向けた取組と，情報技術を正しく理解した上で，DXを企画，推進する力を身に付けてほしい。

問2

問2では，事業部門とともに事業戦略に基づき，新しいビジネスモデルを策定する際に，ITで新たに実現することを検討し事業部門に提案した経験のある受験者には論述しやすかったと思われる。一方で，ビジネスモデルの概念が理解できておらず，新サービス導入や新システム導入の論述，又は，受験者の経験がうかがえない具体性のない論述，新しいビジネスモデルの実現可能性の検討が足りない論述も散見された。ITストラテジストは，事業部門とともに，業務の中で，新しいビジネスモデルの実現可能性を考える経験を積み，ITによるビジネスモデルを策定する能力を養ってほしい。